



RHYTHM

2023年3月期 第2四半期決算説明会

2022年11月25日

リズム株式会社

(東証プライム 7769)

I 2022年度上期 業績概要

II 2022年度通期 業績予想

III 財務・資本政策、サステナビリティへの取組

IV プライム市場上場維持基準の適合状況

(参考) 中期経営計画の概要

注：本資料中、特段の注記がある場合を除き、金額は切り捨て、年は事業年度(4月～翌3月)を表します。

I 2022年度上期 業績概要

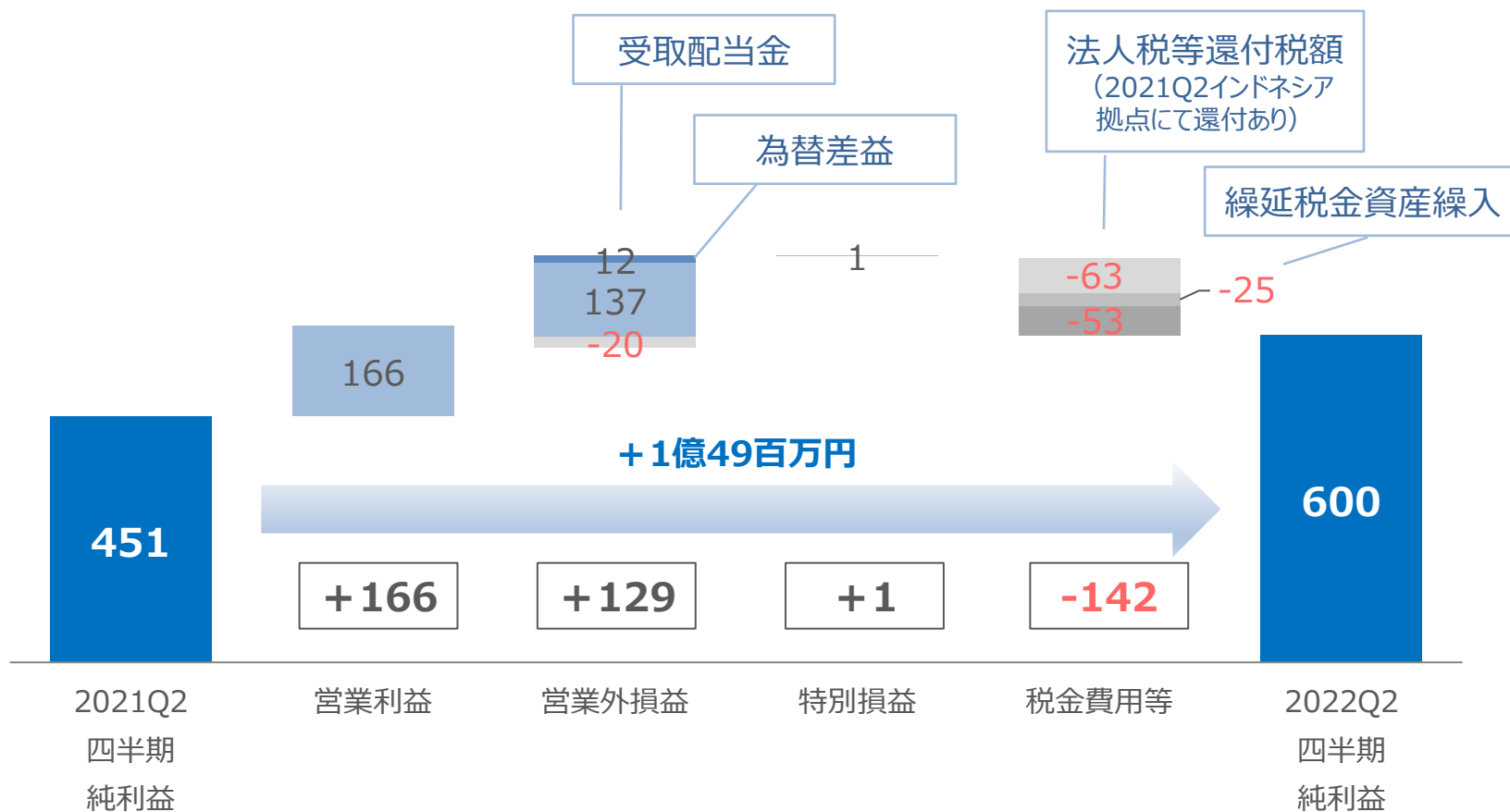
損益計算書

	2021Q2	2022Q2	前期比	業績予想比	業績予想	(百万円)
売上高	13,855	16,599	2,743	1,899	14,700	
国内売上高	7,392	8,124	731	—	—	
海外売上高	6,462	8,474	2,012	—	—	
海外売上高比率	47%	51%	4%	—	—	
営業利益	266	433	166	63	370	
営業利益率	1.9%	2.6%	0.7%	0.1%	2.5%	
経常利益	432	729	296	209	520	
経常利益率	3.1%	4.4%	1.3%	0.9%	3.5%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	451	600	149	200	400	
四半期純利益率	3.3%	3.6%	0.4%	0.9%	2.7%	
1株当たり親会社株主に 帰属する四半期純利益 (円)	54.65	72.72	18.07	24.29	48.44	
期末日為替レート (US\$ = ¥)	111.92	144.81	32.89	24.81	120.00	
期中平均為替レート	109.54	129.88	20.34	—	—	

業績予想 : 2022年5月12日発表「2022年3月期 決算短信」

四半期純利益増減

(百万円)



財務指標

	2021年度 実績	2022年度 計画	2022年度 Q2	計画比
営業利益率	3.0%	3.3% (上期2.5%)	2.6%	-0.7% (上期0.1%)
ROE	4.0%	3.8%	2.1%	-1.7%
海外売上高比率	49%	46%	51%	5.1%
車載関連売上高	87億円	105億円	49億円	47% (進捗率)

売上



収益性

資本
効率性

貸借対照表

(百万円)

	2022年3月末	2022年9月末	2022年3月末比	主な増減要因
流動資産	24,069	27,166	3,096	
現金及び預金	9,941	10,421	479	
受取手形、売掛金他	5,892	6,277	385	
棚卸資産	7,397	9,383	1,985	原材料積増（精密）、製品増加（生活）
その他	837	1,083	245	
固定資産	14,223	14,549	326	
有形固定資産	9,864	10,326	461	
無形固定資産	458	504	45	
投資有価証券	2,067	2,178	110	
その他	1,832	1,540	-292	
資産合計	38,293	41,716	3,422	
流動負債	9,178	7,362	-1,815	
支払手形及び買掛金	3,563	4,276	713	
短期借入金及び1年内返済長期借入金	505	900	394	
1年内返済社債	3,000	0	-3,000	6月償還
その他	2,110	2,186	76	
固定負債	2,107	4,918	2,810	
長期借入金	1,074	2,714	1,640	
社債	-	1,500	1,500	
その他	1,033	703	-330	
負債合計	11,286	12,280	994	
純資産	27,006	29,435	2,428	
資本金	12,372	12,372	0	
資本剰余金	7,584	7,584	0	
利益剰余金	4,100	4,391	291	
自己株式	-276	-277	0	
その他有価証券評価差額金	366	474	107	
為替換算調整勘定及びその他	2,859	4,889	2,030	円安影響
負債・純資産合計	38,293	41,716	3,422	
自己資本比率	70.5%	70.6%	0.0%	

キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	2021Q2	2022Q2	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	496	55	-441
投資活動によるキャッシュ・フロー	-547	-509	38
フリーキャッシュ・フロー	-50	-453	-403
財務活動によるキャッシュ・フロー	-544	126	670
現金及び現金同等物に係る換算差額	61	807	746
現金及び同等物の四半期末残高 (預入期間が3ヶ月を超える定期預金を除く)	9,742	10,421	678

営業活動によるキャッシュ・フロー

2022Q2

税金等調整前四半期純利益	730
減価償却費	686
仕入債務の増減額 (△は減少)	348
棚卸資産の増減額 (△は増加)	-1,357
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	-242
為替差損益 (△は益)	-113

投資活動によるキャッシュ・フロー

2022Q2

有形固定資産の取得による支出	-445
無形固定資産の取得による支出	-86

財務活動によるキャッシュ・フロー

2022Q2

長期借入れによる収入	2,500
長期借入金の返済による支出	-394
社債の発行による収入	1,500
社債の償還による支出	-3,000
配当金の支払額	-309
	8

2022年度上期 決算のポイント

✓ 前期比増収・増益。業績予想に対しても上振れ

- 売上高 **165億円** (前期比+19.8%、業績予想比+12.9%)
- 営業利益 **4.3億円** (前期比+62.6%、業績予想比+17.1%)
- 営業利益率 **2.6%** (前期比+0.7%、業績予想比+0.1%)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 **6億円** (前期比+33.1%、業績予想比50.1%)

✓ 精密部品事業の堅調な受注が全体を牽引

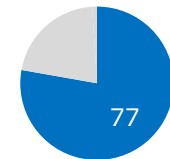
✓ 生活用品事業のクロック構造改革は一定の成果も、円安影響甚大で営業赤字

✓ 円安はグループ全体では売上・利益へプラス影響

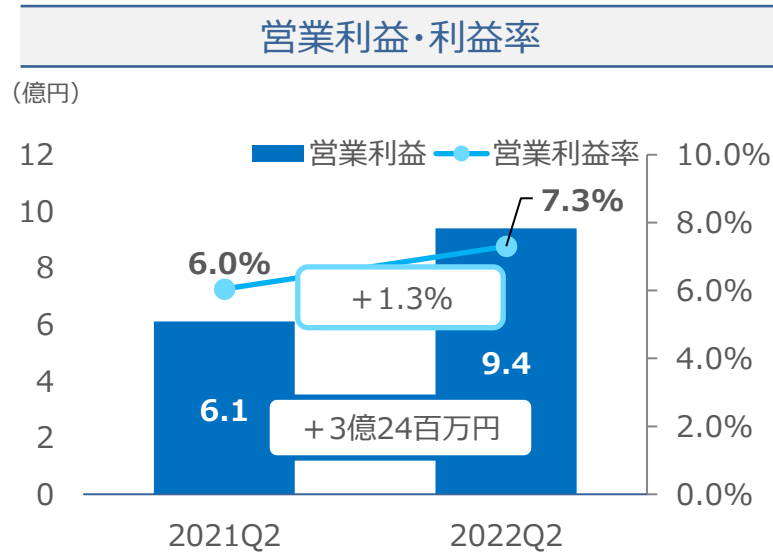
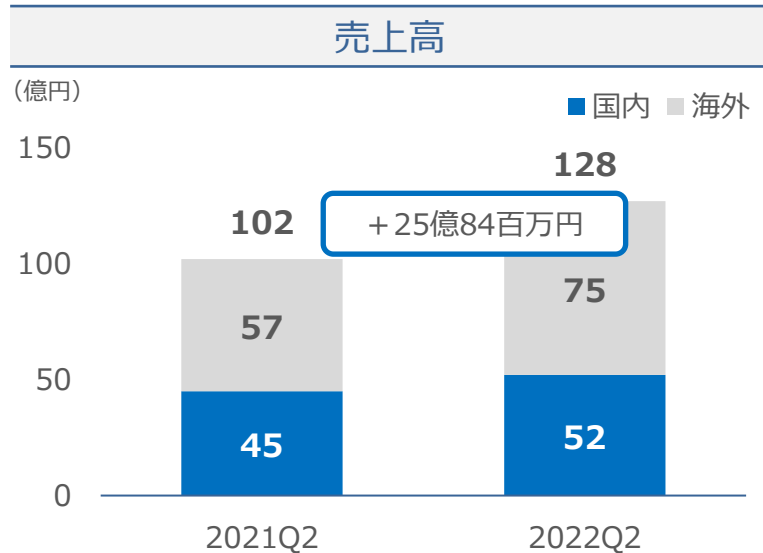
損益計算書（セグメント別）

	2021Q2		2022Q2		前期比	業績予想比	業績予想
	実績	%	実績	%			
売上高	13,855	100%	16,599	100%	2,743	1,899	14,700
精密部品事業	10,238	74%	12,822	77%	2,584	1,822	11,000
生活用品事業	3,373	24%	3,536	21%	162	36	3,500
その他	243	2%	240	1%	-3	40	200
営業利益	266	1.9%	433	2.6%	166	63	370
精密部品事業	617	6.0%	942	7.3%	324	122	820
生活用品事業	-115	-3.4%	-188	-5.3%	-73	21	-210
その他	40	16.4%	39	16.3%	0	9	30
調整額	-276	—	-359	—	-82	-89	-270

%：売上高欄は構成比率、営業利益欄は営業利益率



売上高構成比
(対連結売上高)



総括

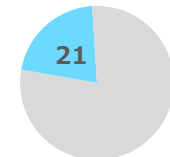
国内・海外ともに増収・増益

【国内】

- 産業機械・家電・太陽光発電機器関連の受注が引き続き好調
- 車載関連は半導体入手難による取引先生産調整の影響を受けるも、EV/HV向け新規立上部品は好調
- 原材料高騰が利益圧迫要因となるも、堅調な受注と一部価格改定により利益確保

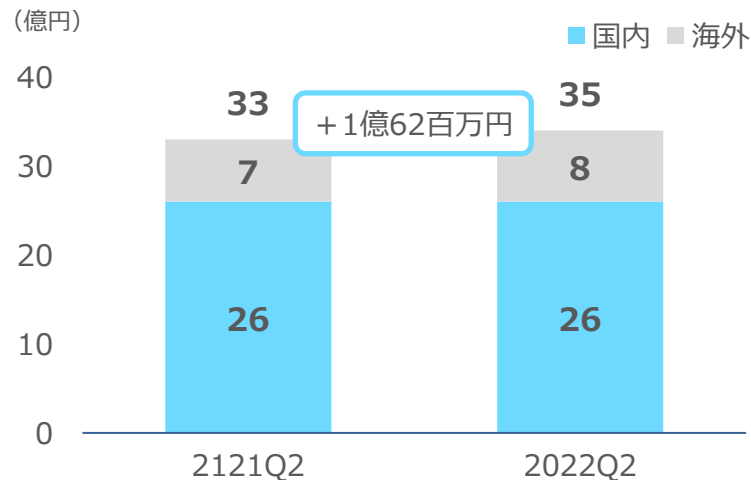
【海外】

- 中国はロックダウンの影響で苦戦。インドネシア、ベトナム拠点では、コロナ前水準まで受注回復
- 円安進行により円貨換算額の売上・利益が増加

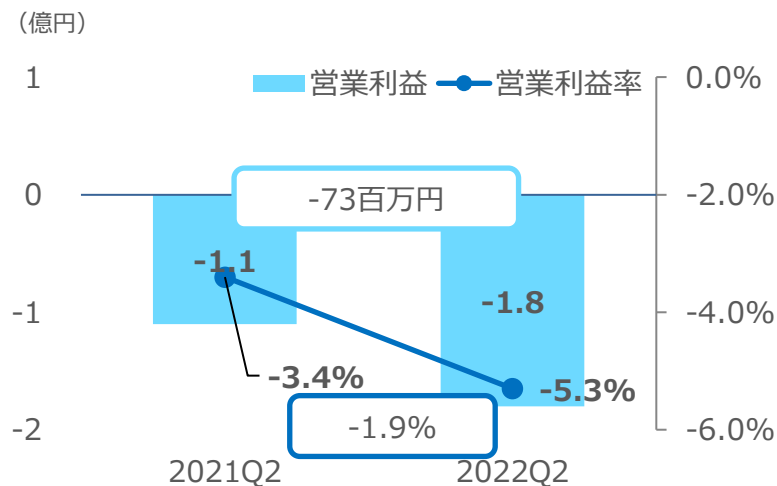


売上高構成比
(対連結売上高)

売上高



営業利益・利益率



総括

国内は売上微増・営業損失、海外は増収・増益・黒字回復。全体では増収・営業損失

【国内】

- 店頭販売は前年比減少も、新たな販売戦略を講じたネット販売が好調
- 原材料高騰や円安影響により原価上昇。一部販売価格の改定を行うも、原価上昇分は吸収できず

【海外】

- 中国向け販売は減少も、その他アジア圏での販売拡大、新販路開拓により売上好調
- 円安進行により円貨換算額の売上・利益が増加

Ⅱ 2022年度通期 業績予想

経営環境認識

世界経済の先行き不透明感が続く中でも、事業機会創出へ

- ✓ 米国の景気後退、金融引き締めを背景とした世界的な景気の下振れ
- ✓ 世界的なインフレ、為替の変動
- ✓ ゼロコロナ政策による中国経済の回復の遅れ

精密部品事業

- 世界での脱炭素化・EV化の加速
- 原材料調達難は長期化も一部解消
- 原材料価格の高騰
- 車載関連は、半導体入手難による取引先生産調整の継続

生活用品事業

- ネット販売の拡大
- 情緒的価値※志向の高まり
- 防災意識の高まり
- インフレの加速、個人消費への影響
- 原材料価格・中国人件費の高騰

※製品を使用した際に体感できる精神的な付加価値

損益計算書

	2021年度 通期実績	2022年度 通期業績予想	前期比
売上高 (海外売上高比率)	29,999 (49%)	30,700 (46%)	700 (-3%)
営業利益	892	1,000	107
営業利益率	3.0%	3.3%	0.3%
経常利益	1,286	1,300	13
経常利益率	4.3%	4.2%	-0.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,031	1,000	-31
当期純利益率	3.4%	3.3%	-0.2%
1株当たり親会社株主に 帰属する当期純利益 (円)	124.92	121.09	-3.83
期末日為替レート (US\$ = ¥)	122.39	120.00	-2.39
期中平均為替レート	111.55	—	

業績予想：
2022年5月12日発表
「2022年3月期 決算短信」

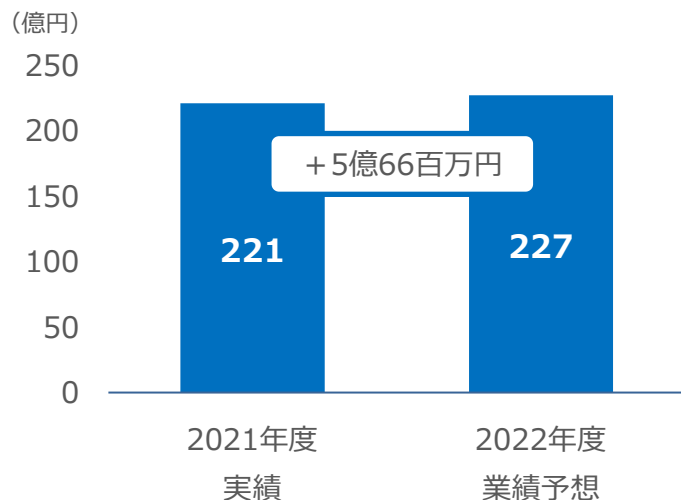
損益計算書（セグメント別）

(百万円)

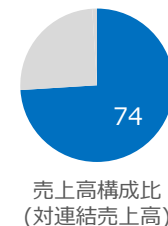
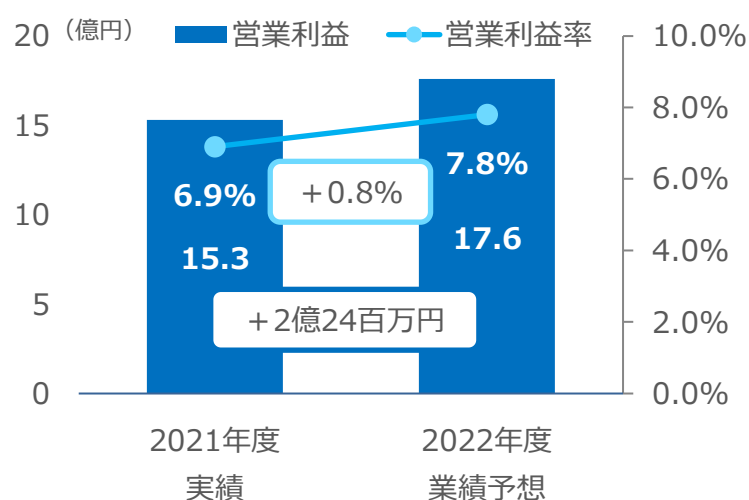
	2021年度		2022年度		前期比
	通期実績	%	通期業績 予想	%	
売上高	29,999	100%	30,700	100%	700
精密部品事業	22,133	74%	22,700	74%	566
生活用品事業	7,422	25%	7,600	25%	177
その他	444	1%	400	1%	-44
営業利益	892	3.0%	1,000	3.3%	107
精密部品事業	1,535	6.9%	1,760	7.8%	224
生活用品事業	-174	-2.4%	-280	-3.7%	-105
その他	64	14.5%	60	15.0%	-4
調整額	-532	—	-540	—	-7

%：売上高欄は構成比率、営業利益欄は営業利益率

売上高



営業利益・利益率



下期の取組

通期業績予想：増収・増益

■成長分野の受注拡大

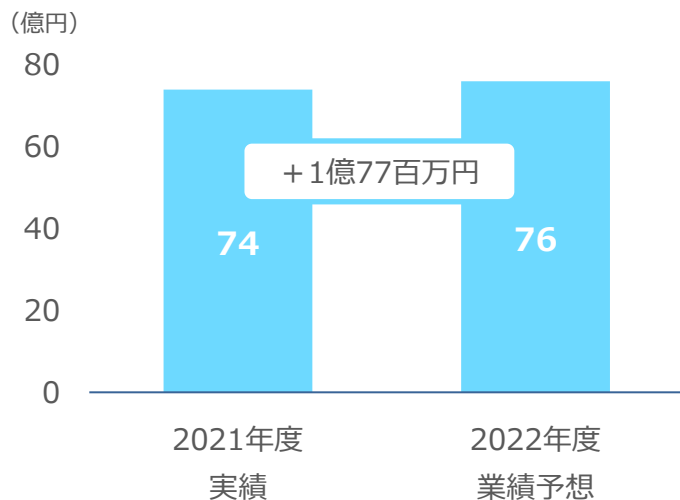
- － 車載関連：中長期的な新規受注活動強化（中国、欧州メーカー向け注力）
- － 新領域：事業領域拡大に向けた超高難度精密技術の活用

■製販技グローバルネットワークを活かした新規受注拡大

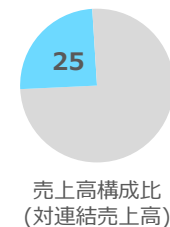
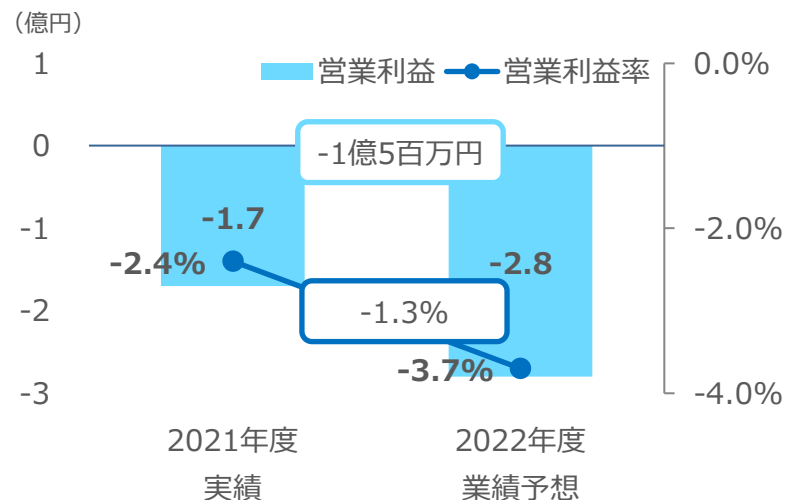
■技術目録整備強化 → グループ全体の技術力底上げ・技術統括機能強化

■国内外生産拠点への積極投資による生産力強化

売上高



営業利益・利益率



下期の取組

通期業績予想：増収・営業損失

- 快適品売上拡大・・・次頁：今期新製品紹介
 - 快適品企画・開発体制の強化・スピードアップ
 - クロック主力製品の戦略的販売・価格政策の実施
 - クロック部品共通化、生産拠点最適化等による徹底的な合理化
 - 海外販売（中国はじめアジア圏、米国）・ネット販売強化
- 早期黒字化の実現へ

MIST 300
ミスト 300

2022
10月
発売

洗いやすい、
くつろぎの加湿器

GOOD DESIGN
AWARD 2022

特設サイトへ

GREEN
FUNDING

公開開始4分で目標金額100%達成
公開初日で目標金額の約600%以上達成
公開5日で目標金額1000%達成
ランキング1位獲得(2022/9/1)
ロケットスタートプロジェクト5選選出



AROMAFAN
アロマファン

ふたを開けて、香る。
くつろぎのひとつ

Makuake

公開開始14分で目標金額100%達成
公開初日目標金額約300%以上達成
(売価1847円/税込購入総額3,094,740円)
ロケットスタートプロジェクトベスト20選出

2022
8月
発売

特設サイトへ



ゆらぐあかりとアロマの香り、
くつろぎの加湿器

MIST Mini
コンパクト加湿器

2022
9月
発売



お風呂でスマホ、
くつろぎの防水ケース

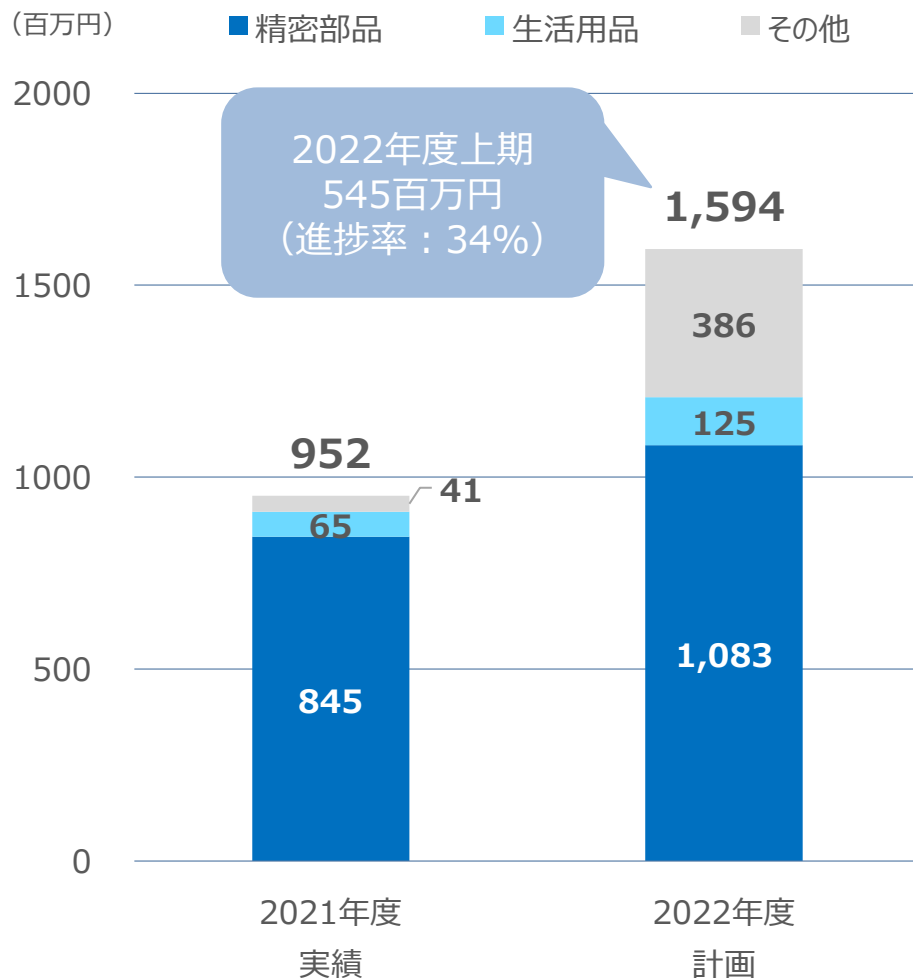
MAGCASE S
防水ケース(スマートフォン用)

2022
9月
発売



Ⅲ 財務・資本政策、サステナビリティへの取組

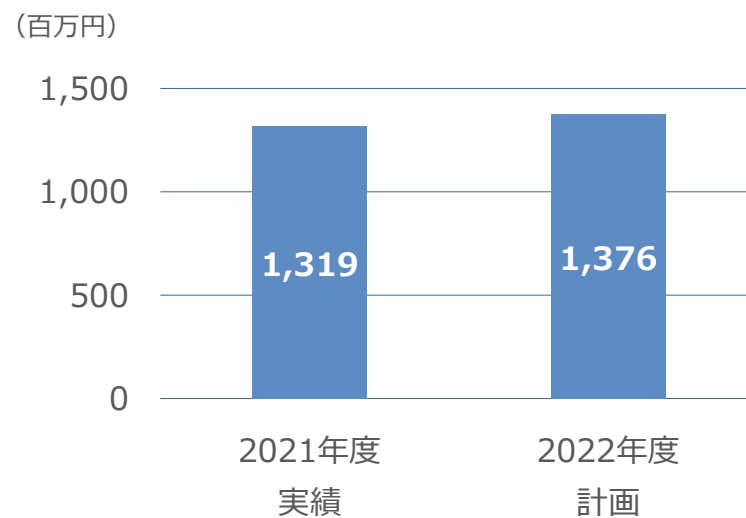
設備投資



主な設備投資計画内訳

精密部品	1,083 百万円	プレス機、加工機、 成形機、固定資産修繕
生活用品	125 百万円	金型、固定資産修繕
その他	386 百万円	システム・IT投資
合計	1,594 百万円	

減価償却費



資本コスト経営

体制

ROIC経営フレームワーク

取締役会・経営会議

2022年度の取組

報告

- 事業ポートフォリオ報告（年2回）
 - ・基本方針についての議論
 - ・事業ポートフォリオ分析・評価
 - ・M&Aについての議論 など
- ※M&Aについては別途定例報告（年4回）

- ✓ WACC、ROICを加味した事業ポートフォリオ評価の実施
- ✓ 事業別ROIC導入
- ✓ 個別投資案件の投資基準の見直し

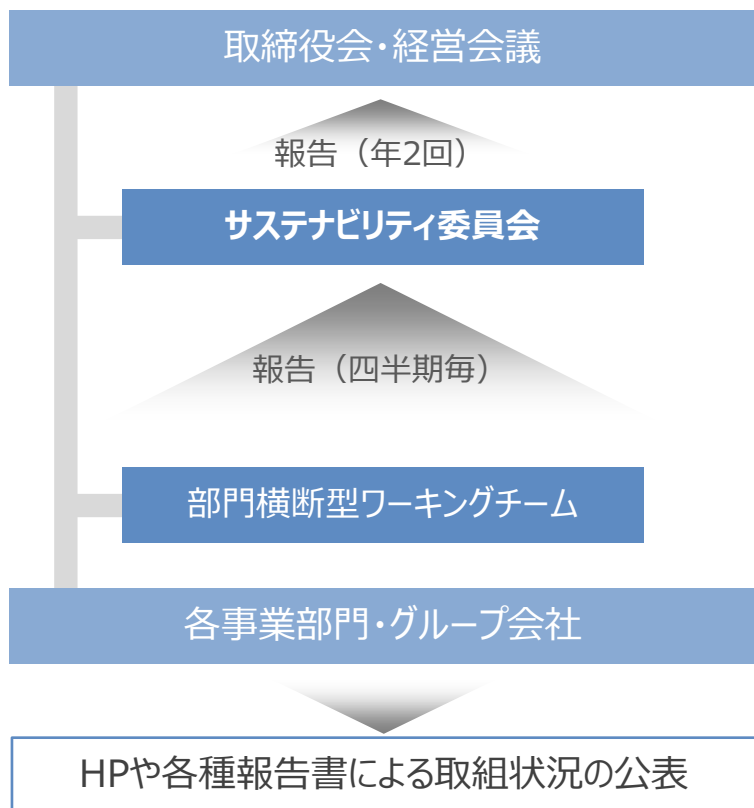
事業ポートフォリオ実務者協議会

担当役員・現場幹部による
具体的施策の進捗・効果の確認など

資本効率性を重視した投資判断により
積極的かつ確度の高いリスクテイクを可能に

サステナビリティ推進の全体像

体制



取組テーマ・重点施策

2022年度の取組

環境	<ul style="list-style-type: none"> ■ CDP質問書回答実施 ■ 施策の実施・モニタリング <ul style="list-style-type: none"> ①再エネへの切り替え ②使用電力の削減 ③環境保全・事業機会創出 等
D & I	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人的資本に関する開示拡充 ■ 施策の実施・モニタリング <ul style="list-style-type: none"> ①女性活躍 ②働き方改革 ③企業風土改革 等

IV プライム市場上場維持基準の適合状況

上場維持基準の適合状況

		流通株式数	流通株式 時価総額	流通株式比率	1日平均 売買代金
当社の適合状況 及びその推移	2021年6月末時点 (移行基準日) ※1	54,718 (単位)	44億円	65.2%	0.07億円
	2022年3月末時点 ※2	54,778 (単位)	73億円	65.3%	0.4億円
	2022年9月末時点 ※3	54,678 (単位)	83億円	65.2%	0.4億円
上場維持基準		20,000 (単位)	100億円	35%	0.2億円
2022年9月末時点適合状況		適合	不適合	適合	適合
計画書に記載の事項			○		○

※1 東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出

※2 2021年6月末の東証による算出方法に合わせて、当社が2022年3月末時点の株券等の分布状況等をもとに試算。

流通株式時価総額の試算における株価は、2022年1月～3月の終値平均株価、1日平均売買代金は、2021年4月1日～2022年3月31日の平均

※3 当社が2022年9月末時点の株券等の分布状況等をもとに試算。

流通株式時価総額の試算における株価は、2022年7月～9月の終値平均株価、1日平均売買代金は、2022年4月1日から2022年9月30日の平均

計画期間

中期経営計画（2023年3月期～2025年3月期）の最終年度まで

(参考) 中期経営計画の概要

経営
理念

たゆみない創造と革新を続け、
豊かで楽しい安全な社会づくりに貢献する

長期ビジョン
(ありたい姿)

もの造りで圧倒的な強さを発揮し、
自ら変化を作り出す企業へ

新中期経営計画

成長戦略の実現

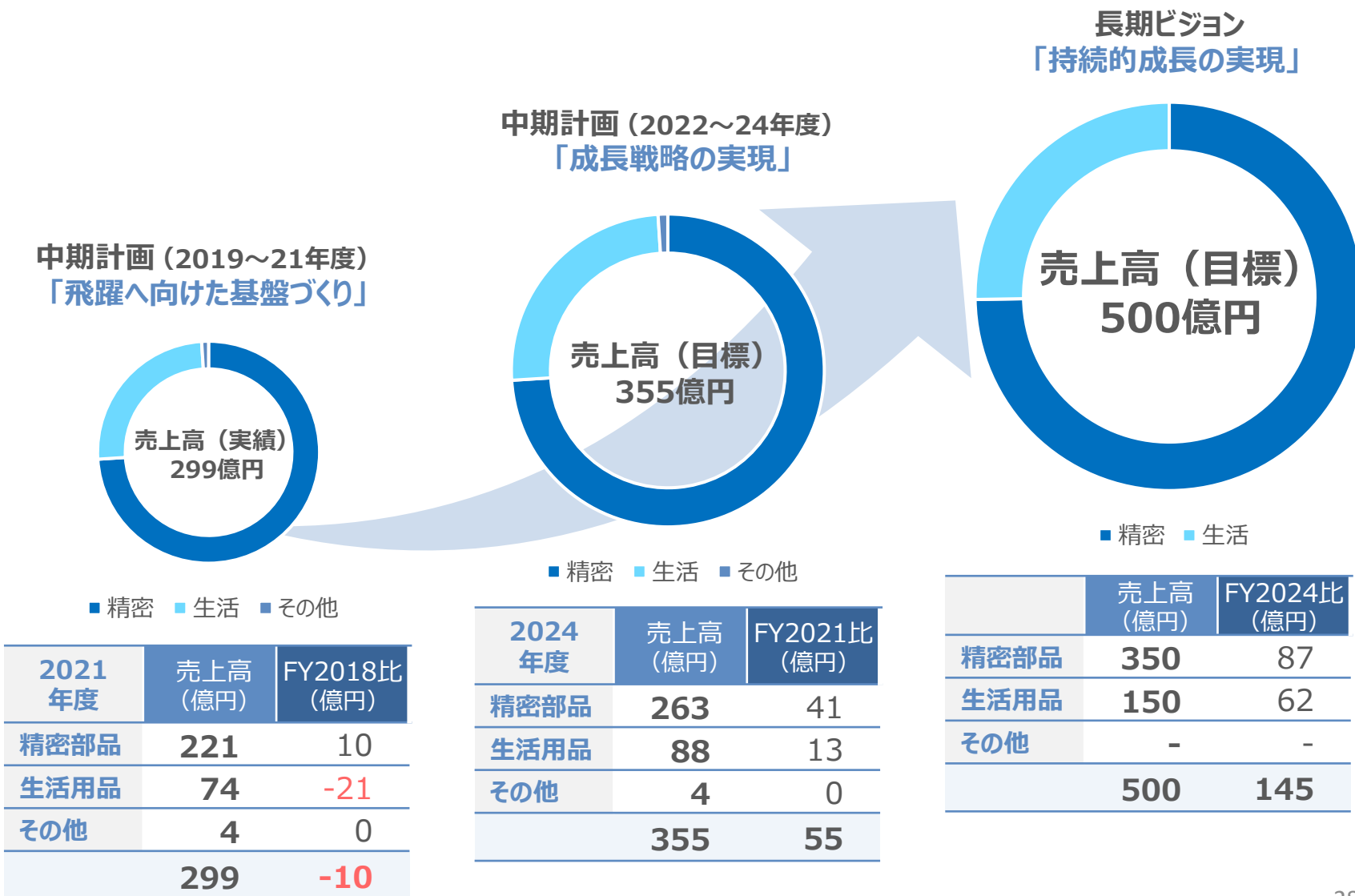
事業戦略

財務戦略

サステナビリティ戦略

経営基盤

長期ビジョンに向けた「成長戦略の実現」の3年間と位置づけ



2024年度売上高355億円、営業利益20億円の達成

売上・利益計画

	2021年度 実績	2022年度 計画	2023年度 計画	2024年度	
				計画	2021年度比
売上高	29,999	30,700	33,000	35,500	5,500
精密部品事業	22,133	22,700	24,600	26,300	4,166
生活用品事業	7,422	7,600	8,000	8,800	1,377
その他事業	444	400	400	400	-44
営業利益	892	1,000	1,600	2,000	1,107
精密部品事業	1,535	1,760	2,100	2,300	764
生活用品事業	-174	-280	0	200	374
その他事業	64	60	70	75	10
調整額	-532	-540	-570	-575	-42
経常利益	1,286	1,300	1,850	2,250	963
親会社株主に帰属する 当期利益	1,031	1,000	1,300	1,600	568
為替レート	122.39	120.00	120.00	120.00	-2.39

持続的な成長のため、資本効率を高める経営へ

財務指標

	2021年度 実績	2022年度 計画	2023年度 計画	2024年度	
				計画	2021年度比
営業利益率	3.0%	3.3%	4.8%	5.6%	2.6%
ROE	4.0%	3.8%	4.7%	5.6%	1.6%
海外売上高比率	49%	46%	48%	48%	-1%
車載関連売上高	87億円	105億円	110億円	120億円	33億円

売上



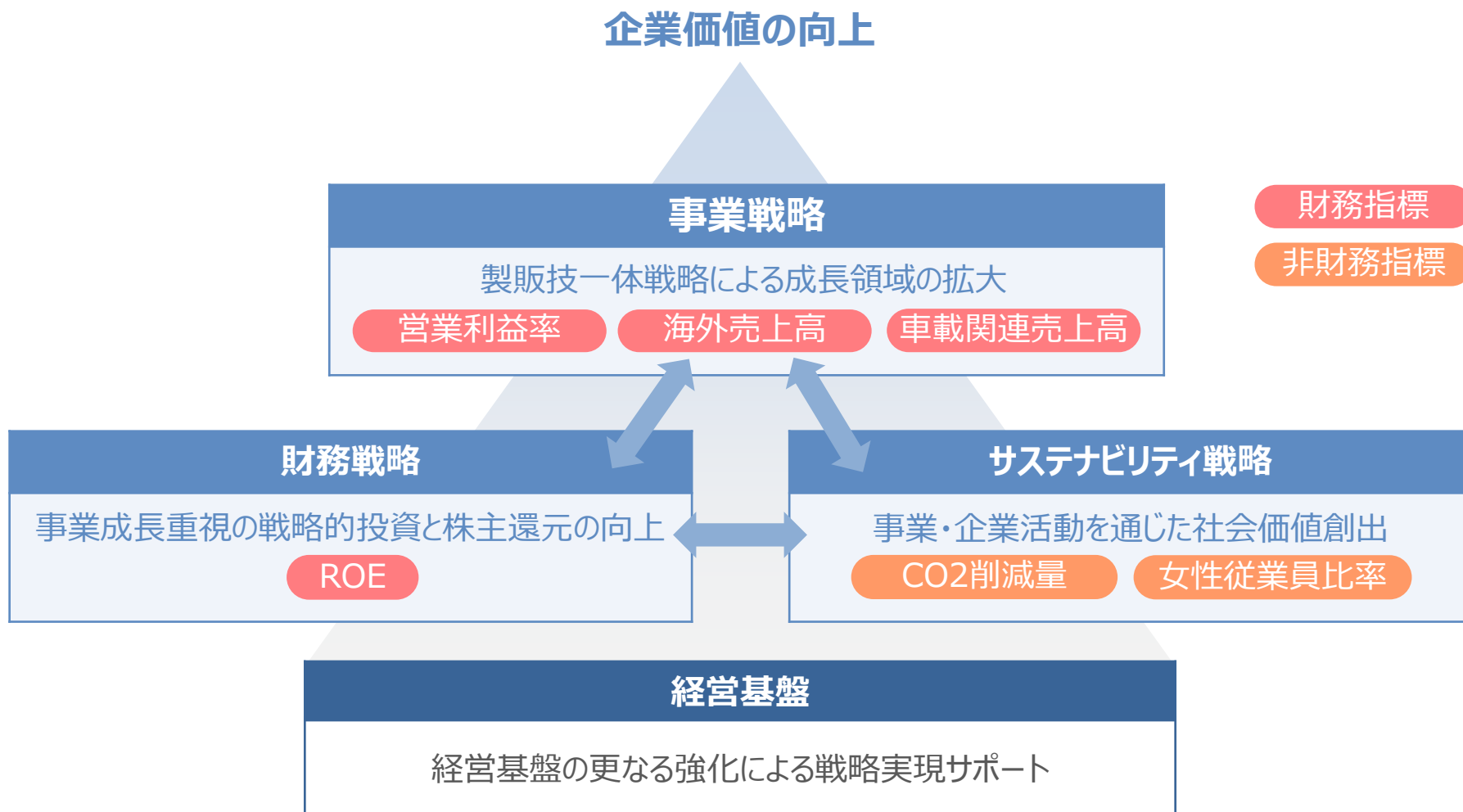
収益性



資本
効率性

- 増収へ海外売上・車載関連売上の拡大
- 営業利益率5.6%以上を確保
- ROE8%以上の達成に向け、2024年度はROE5.6%必達

経営戦略の3つの柱とそれを支える経営基盤により企業価値向上を実現



事業戦略

【方針】 製販技一体戦略による成長事業の拡大

【精密部品】

■ 車載関連事業の拡大

- ・ EV・自動運転/ADAS関連部品の拡大
- ・ オリジナル部品の強化によるリズムブランドの確立

■ 超高難度精密技術による成長領域拡大

- ・ セキュリティ・認証関連部品の拡大(カメラホルダー・センサー等)
- ・ ドローン等ユニット品の拡大
- ・ 新たな高付加価値部品の開発

■ グループ間連携によるコスト競争力強化

- ・ 工場別機能仕分け・技術目録整備の強化
- ・ 自動化・効率化の推進
- ・ 予兆管理・品質傾向分析の強化

【生活用品】

■ 新たな柱となる快適品事業の確立

- ・ 製品ラインナップの拡充
- ・ 企画・開発力の強化

■ クロック事業の維持・効率化

- ・ 主力製品への重点特化
- ・ もの造り改革PJTによる生産効率化・QCD強化

■ D2C販売の強化

- ・ 快適品を中心としたD2C専任販売体制の確立
- ・ 快適品販売に適した新販路の開拓
- ・ グループ会社の直営店舗・ECサイトの活用

■ 海外事業の拡大

【精密部品】

<欧州>

<中国含む東南アジア>

- ・ 欧州メーカー向け取引拡大-欧州駐在事務所の活用
- ・ インサート成形品等の高付加価値部品の地産地消推進
- ・ シンガポール販社からの販路拡大

【生活用品】

<中国>

<米国>

- ・ 快適品中心とした直販体制の構築、インターネット販売の強化
- ・ 大手チェーン店向け大型販売企画の推進

財務戦略

【方針】 事業成長重視の戦略的投資と株主還元の上

■ 資本コスト・事業ポートフォリオ評価を踏まえた戦略的な投資判断

- ・ 事業別ROIC導入
- ・ 事業ポートフォリオ評価の実施
- ・ 投資基準の明確化

■ 積極的な成長事業投資と株主還元の上の両立を実現

【事業投資】

- ・ 成長ドライバである精密部品事業への積極投資
- ・ 生活用品事業の新たな柱（快適品）の育成投資
- ・ システム/IT投資

【株主還元】

- ・ 配当性向30%以上、一株当たり配当金30円以上
- ・ 自社株買いなどの更なる株主還元の見直し（総還元性向の上）

【その他投資】

- ・ M&A投資
- ・ 追加設備投資
- ・ 環境対応

サステナビリティ戦略

【方針】 事業・企業活動を通じた社会価値創出

■サステナビリティへの取組 推進体制

- ・サステナビリティ委員会の設立・年2回取締役会への活動報告
- ・HPや各種報告書による取組状況の開示

■サステナビリティ委員会における2つの取組テーマ

【環境】

電力使用量削減によるCO2排出量の削減

- ・再生エネの利用促進
- ・自社工場の省エネ化推進
- ・環境配慮型製品・パッケージの拡大

非財務指標

2030年度 30%削減

2050年度 実質ゼロ

※ 削減割合は、2018年度比とする

※ スコープ1 + 2 対象とする

【D&I】

ジェンダーギャップ解消・多様な人材の活躍

- ・女性採用強化
- ・育児休暇取得の推進
- ・2024年度プラチナくるみんの取得
- ・障がい者・外国人等多様な人材が活躍できる制度・職場環境づくり

非財務指標

女性従業員比率 25%以上

経営基盤

【方針】 経営基盤の更なる強化による戦略実現サポート

【ガバナンス】

グループガバナンスの高度化

- ・ 改訂CGコード全83項目コンプライ
- ・ 内部監査、コンプライアンス、リスク管理のグローバル・フレームワークの定着・高度化
- ・ グローバル経営管理態勢の強化
 - 経営サポート機能・モニタリング機能の両面での機能発揮

【人材】

人材育成、働きがいの向上

- ・ 人員構成表による適正体制構築
- ・ 階層別・年齢別研修制度の充実
- ・ 「グローバル人材育成プログラム」の実施（国内・海外人材交流）
- ・ タウンミーティングの実施

【IT】

ITインフラの最適化

- ・ 基幹システム入替
- ・ DX推進
- ・ グループIT統制の強化
- ・ テレワーク環境の整備
- ・ ITリテラシー教育の実施

【SR】

コミュニケーション強化

- ・ 適切な情報開示と透明性の確保
- ・ 取引先との共存共栄
- ・ 地域のまちづくり貢献
 - 社会の安心・安全に貢献する製品の開発
 - プロスポーツチームへの協賛

本資料は当社をご理解いただくために作成されたものです。

本資料における予想、計画等将来に関する記述につきましては、当該時点において入手可能な情報に基づき算出したものであり、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績と異なる可能性がある点を認識された上で、ご利用ください。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

広報IR担当窓口

リズム株式会社

経営企画部 相澤
作田

電話 048-643-7241 (経営企画部直通)